

資料 1

安曇野市水環境行動計画～アクションプラン～

- ・中間年次評価・意見聴取のスケジュール(1-1)
- ・「継続検討」事項の現状と課題(1-2)

安曇野市水環境行動計画の中間年次評価・意見聴取のスケジュール

1. 趣旨

令和6年度は、安曇野市水環境行動計画（アクションプラン）における中間評価を行う年となっています。また、審議会委員の皆さまの任期は2年間であり、本年度末までとなっています。

このことから、次の方法により、計画の中間評価と第2次計画策定に向けての意見聴取を行うものです。

2. 評価方法の流れ

(1) 継続検討事項の現況説明（本日10月7日）

アクションプランに掲載している各施策の評価は、毎年4月の審議会において事務局が整理したものを報告しています。このうち、「継続検討」として報告している施策は、施策の現状と課題・一定の方向性を掲載する必要があることから、本日（10月7日）の審議会において協議します。

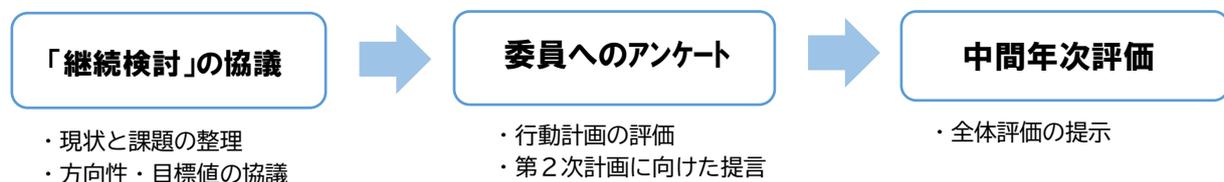
（資料1-2参照）

(2) 委員へのアンケート実施（1月）

「継続検討」の案件も含めた行動計画に全体評価、また、令和8年度に策定する第2次計画に向けた提言などを、委員宛てアンケートにより調査します。

(3) 中間年次評価・アンケート結果の説明（3月中旬）

各施策の進捗状況と、行動計画全体の目標達成、アンケートの回答を事務局が整理し、第4回審議会に諮ります。



安曇野市水環境行動計画（アクションプラン） 「継続検討」事項の現状と課題

【施策4-3】 （仮称）安曇野マークの制作と認証制度の創設検討・実施・運用等

アクションプランの概要

- ・安曇野市における水環境の保全・活用の取組の意識啓発として、シンボルマーク（ロゴ等）の公募・制作・活用等を行う。
- ・安曇野市の水環境保全・活用に関わる活動や製品等に対する、認証制度の設立を検討し、シンボルマークの活用も念頭に、活動等の広報・支援を検討する。
- ・来訪者に対するPRとして、安曇野市の名水に関連するノベルティグッズを制作し、配布する。
- ・市内関係者による地下水協力金の検討における「協力金に係る必要性等の検討継続」と進捗を合わせ、安曇野マークの制作、認証制度の設立等に係る検討を進めていく。
- ・資金調達に係る検討状況を踏まえた上で取組を進める。

現状と今後の方向案

- ・「涵養事業の情報発信」として、あづみの水結ロゴマーク作成を掲げているが、安曇野の水資源を守る活動やPRする活動の輪を広げる取り組みとしても、マークを活用している。
- ・令和7年度は、ロゴマークを活用したノベルティ、名刺裏面の版下、あづみの水結登録事業者の掲載（広告にするかは要検討）を伴う冊子、SNSの製作を立案したい。

【施策5-1】 市内関係者による地下水協力金の検討

アクションプランの概要

- ・安曇野市内における地下水涵養の施策に要する費用について、地下水を揚水し、または湧水を利用する主体（受益者）間の負担ルールや分担等に関する研究、協議等を進める。
- ・協力金に係る必要性等の検討継続。
- ・負担ルール等の検討においては、水道事業者や民間企業等の地下水採取者による節水の取組（再利用や揚水量削減に寄与する投資等）を考慮する。

現状と今後の方向案

- ・新たに効果的な涵養施策が見つかるまで資金調達を見合わせている。
- ・この理由としては、現在の涵養事業（麦後湛水）の効果を検証しておらず、資金調達の合意形成が困難である点、地下水の収支は、他市町村で揚水によって相殺されるなど広域的な課題である点がある。
- ・このことから、令和6年度に「麦後湛水事業の検証」、「あづみの排水路内からの涵養量」を調査している。また、令和6から7年度には、わさび田湧水群の地下水低下対策として、「即効性の高い地下水涵養エリアの特定」について調査している。
- ・今後、人工的涵養量は、目標値である300万 m^3 /年に達する見込みであるが、涵養の「量」とともに涵養の「質」についても検証を進め、涵養施策の再設定を段階的に進めたい。
- ・また、協力金の用途としては、涵養施策だけでなく、水資源に関わる環境教育事業など、間口を広げた活用も検討したい。

【施策5-2】 地下水協力金（市外）の検討

アクションプランの概要

- ・市外の住民・企業等からの安曇野市の地下水涵養推進のための費用調達手法に関する検討を行う。
- ・具体的には、「①企業版ふるさと納税の検討」、「②ふるさと納税の用途選択制度の導入検討」、「③水を軸とした観光商品（水ツアー）の開発」、「④地下水涵養に資する農作物のブランド価値の向上」等の取組について検討を進める。
- ・市内関係者による地下水協力金の検討における「協力金に係る必要性等の検討継続」と進捗を合わせ、充当する施策の検討を進めていく。

現状と今後の方向案

- ・「企業版ふるさと納税」の寄付対象事業として、「安曇野の豊かな水環境保全事業」を掲げ、支援を募っている。
- ・水環境保全事業には、令和5年度に3社（㈱ヤマト、甲信商事㈱、非公開希望企業）から70万円、令和6年度に（(一社)日本中小企業金融サポート機構、共進建設㈱、甲信商事㈱）から30万円の寄付をいただいた。
- ・「水を軸とした観光商品」は、着地型ツアーとして、安曇野市観光協会でガイド付「わさび収穫体験と水巡りサイクリング」を実施している。今後、資料・情報提供などの連携を図りたい。

【施策5-3】 事業者の水収支公表の仕組みづくり

アクションプランの概要

- ・揚水事業者が、「地下から取った水は、取った分だけ地下に還す」を基本的な理念とした事業活動を継続していく上で、事業の水収支を可視化することは、地下水環境を保全・強化・活用する事業の持続可能性の向上にも寄与するものである。
- ・揚水事業者を中心に、自社事業に関わる水収支を管理・公表する体制の構築と展開に向けた検討を行うことで、副次的に、水利用に関する意識の啓発や適正管理等を図る。
- ・市内関係者による地下水協力金の検討における「協力金に係る必要性等の検討継続」と進捗を合わせ、水収支の公表方法や、その場の検討を進めていく。
- ・協力企業側におけるインセンティブ付与の取組との連携に留意する。

現状と今後の方向案

- ・事業者の水収支の公表は、事業者における地下水採取者の役割として位置づけており、自社の持続可能な地下水環境づくりの実践のためのものである。
- ・事業者における水収支の公表は、事業者自らが公表するものと考えているが、全国の事業者における水収支評価方法が異なることから、国に対して統一した評価手法の構築や努力企業のインセンティブを高める制度を要望する。
- ・安曇野市としては、地下水を利用している事業者に対して、市内外の再涵養取組事例について情報提供と周知を行っていくことで、企業努力に対するモチベーションの向上と、協力企業側のインセンティブ付与を図ることができると考える。
- ・事業者毎の水収支は公表できないが、取り組んでいる全事業者のトータルの水収支公表の仕組みづくりを今後、研究していきたい。

【施策5-4】 地下水保全等の活動への参加・協力におけるインセンティブ付与

アクションプランの概要

- ・地下水の保全・強化・活用への参加や、寄附金等の協力に対するインセンティブの付与は、協力者等の満足度を向上させ、協力継続のモチベーションとなる。また、それによる裾野（参加者）の拡大にも寄与することが期待されることから、地下水保全等の活動への参加・協力時のインセンティブ付与の内容や条件等について調査・検討する。
- ・市内関係者による地下水協力金の検討における「協力金に係る必要性等の検討継続」と進捗を合わせ、インセンティブ付与について検討を進めていく。
- ・資金調達と関連付けたインセンティブ付与の実現が求められる。

現状と今後の方向案

- ・協力金に係る必要性等の検討と合わせて進めていく。
- ・大きな仕組みづくりとはいえないが、令和7年度の媒体制作において、広告掲載・企業掲載を併せて検討したい。

【施策6-1】 運用・管理団体の設立

アクションプランの概要

- ・資金管理等について、その運用・管理団体の設立に係る検討を進める。
- ・市内関係者による地下水協力金の検討における「協力金に係る必要性等の検討継続」と進捗を合わせ、資金の運用・管理団体の設立について検討を進めていく。
- ・資金管理においては、監査を適切に実施・継続可能な体制の構築に留意する。

現状と今後の方向案

- ・運用・管理団体の設立は、地下水協力金の大きな仕組みづくりが伴う。
- ・上記【施策5-1～4】の議論と併せ、検討する。

資料 2

令和6年度水田機能維持・地力増進推進事業の報告

令和6年度水田機能維持・地力増進推進事業（2024/9/25時点）

地域	作付面積（㎡）	涵養見込量（㎡）
11豊科	79,382	99,474
12豊科光	1,633	2,380
13豊科高家	135,188	164,367
14豊科田沢	623	1,045
15豊科南穂高	54,891	59,765
21穂高	79,436	76,560
22穂高柏原	62,545	66,289
23穂高北穂高	8,877	11,470
24穂高牧	38,347	32,673
25穂高有明	177,054	170,437
32三郷温	285,252	284,755
33三郷明盛	356,701	405,850
41堀金烏川	355,121	472,159
42堀金三田	12,407	18,132
総計	1,647,457	1,865,356

涵養見込量 = 作付面積 × 平均涵養高（27.5mm/日） × 水張り日数

涵養高（mm/日） = 減水深（mm/日） - 蒸発散高（mm/日）

平均涵養高（27.5mm/日）は、安曇野市水環境基本計画（p.37・53）に掲載。

この表の涵養見込量は、圃場ごとに水張り日数が異なるため、ほ場ごとの値の総和とした。

資料 3

令和6年度事業の中間報告

- ・あづみの水結の活動報告
- ・住宅用雨水貯留施設設置補助の再開

あづみの水結の活動報告

(令和6年9月30日現在)

1. 加入状況

前回報告時(7月)より、3名が加入。合計で20者(15個人・5団体)となった。主な活動内容は次のとおりです。企業・団体の登録が少ないため、企業側のメリットを明確に打ち出すことが今後の課題となります。

	名前	現在の活動	今後の活動
1	T・T	家庭用井戸の水位報告	継続的な水位報告
2	E・K	//	//
3	H・T	水環境保全の情報提供・審議	出前授業など市民への情報提供

2. X(旧ツイッター)の発信

- ・週2回の発信を継続的に実施。
- ・地下水の仕組みや文化、水に関わる日々の出来事などを掲載。
- ・フォロワー192(9月末現在)
- ・今後、登録事業者、団体と連携した発信を研究したい。

3. 今後の取り組み

(1) 三郷小学校4年生の出前授業

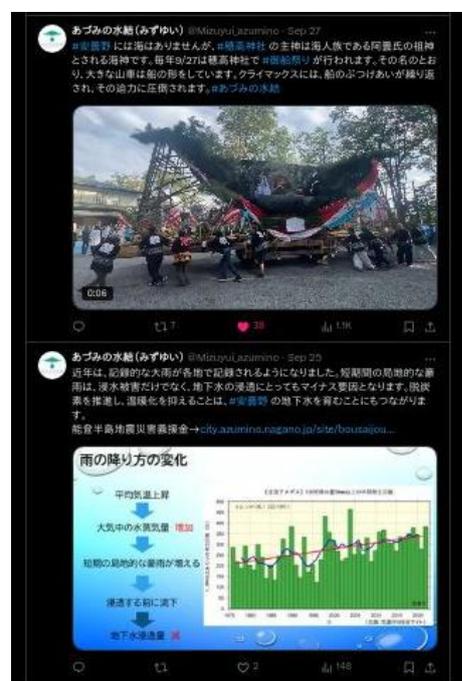
- ・10月21日(月)三郷小学校4年生 156人対象
- ・「安曇野の地下水のでき方と現状」をテーマとした授業
- ・あづみの水結スタッフからサポートいただく予定。

(2) 名刺台紙の活用

- ・あづみの水結公式SNS(X)に誘導する名刺台紙を作成。
- ・今後、あづみの水結登録者にも活用を呼び掛けたい。

(3) 安曇野環境フェアへの出展

- ・10月12日(土)、13日(日)堀金総合体育館
- ・「あづみの水結」としてブース出展
- ・安曇野の地下水に関わるバナー展示、名水百選の地・名水百選カードの紹介、クイズなどを予定。



掲載記事の一部



名刺裏面

住宅用

雨水貯留施設の設置補助

令和6年度 安曇野市住宅用雨水貯留施設設置補助金のご案内

最大
5万円

令和6(2024)年4月1日現在



2024
9/27
受付再開!

地下水の
かん養

循環型
まちづくり



災害時の
生活用水



雨水貯留施設
雨水を雨どいから分岐器具により
タンクに流入させ貯めるものです。

対象施設

次のすべてに該当する施設

- ① 雨水を貯留する構造を持つもの
- ② 住宅の雨どい等に接続し架台などに固定して設置されているもの

対象者

次のすべてに該当する人

- ① 市税等の滞納がない人
- ② 自らが居住するための市内の住宅(事務所・店舗などの用途を兼ねる住宅を含む)に対象施設を設置する人
- ③ 補助金交付申請をした年度内に対象施設の設置を完了できる人

ご注意

- ▼ 必ず、着工前(または製品の購入前)に申請をしてください。
- ▼ 補助金の交付は1つの住宅につき1基までです。
- ▼ 令和6年度の予算に達し次第、終了します。予算の残額は、申請前にお問合せください。

雨水貯留施設
100ℓ～499ℓ

補助率 **1/2**以内
最大 **2.5**万円

雨水貯留施設
500ℓ以上

補助率 **1/2**以内
最大 **5**万円

合併浄化槽等から
転用した貯留施設

補助率 **1/2**以内
最大 **5**万円

※補助金額に100円未満の端数がある場合は、切り捨てとなります。

お問合せ
安曇野市 市民生活部 環境課 環境政策担当
TEL 0263-71-2492(平日8:30～17:15) 〒399-8281 安曇野市豊科6000番地

安曇野市 雨水補助金



よくあるご質問



補助金申請の前に何をすればいいですか？



まず、市の環境課に電話などで予算の残額を確認してください。
その後、対象経費※を計算するために次の書類を準備してください。

- 工事の場合 → 施工業者さんに相談し、見積書を作成してもらう。
- 購入の場合 → 店舗購入の場合は見積書を作成してもらう。
ネット購入の場合はそのページを印刷する。

※対象経費…補助金の対象として計算のもとになる金額



補助金額はいくらですか？



次のとおりです。

●100～499%の雨水タンク等

対象経費が5万円以上の場合 → 補助金額2.5万円

対象経費が5万円未満の場合 → 対象経費÷2 (100円未満切捨て)

●500%以上の雨水タンク等・合併浄化槽等からの転用

対象経費が10万円以上の場合 → 補助金額5万円

対象経費が10万円未満の場合 → 対象経費÷2 (100円未満切捨て)



インターネットで製品を購入し、自分で設置する場合でも補助金はもらえますか？



もちろん補助対象となります。

ただし、自分や家族が製品を設置するために作業に対する対価が発生する場合の対価は補助対象になりません。この場合も購入費は補助対象です。



手続きのながれは？



手続きは、次のとおりです。

①補助金申請

→ 市の環境課に補助金交付申請書(様式第1号)を提出する。

②購入・設置、工事など

→ 市から補助金交付決定通知が届いたら、購入・設置や工事をする。
支払いの際は、領収書※をもらっておく。

③実績報告

→ 市の環境課に補助金実績報告書(様式第2号)を提出する。

④請求・入金

→ 市から補助金交付確定通知が届いたら、補助金請求書を提出する。
その後、指定口座に補助金が入金されます。

※領収書は補助金申請者の名義で発行してもらう。クレジットカード支払いの場合は申請者のカードで支払う。領収書が発行できない場合は、支払いの証拠となる明細書など。



資料 4

大阪公立大学・遠藤崇浩ゼミとの交流事業

大阪公立大学・遠藤崇浩ゼミとの交流事業

1 要旨

大阪公立大学遠藤ゼミ（地下水管理政策・湧水対策）の合宿に合わせ、「令和の名水百選に向けた安曇野市の水環境の魅力の掘り起こし」をテーマにした意見交換とアイデア発表を行う。また、市内の水環境視察・「憩いの池」清掃参加により交流を図る。

2 日時

令和6年9月6日（金）午後3時～9月8日（日）正午

3 内容

● 安曇野市の水環境に関わるワークショップ

- (1) 日時 9月6日（金）午後3時～午後5時15分
- (2) 場所 安曇野市役所 共用会議室 307（控室 305）
- (3) 参加者 遠藤ゼミ9名（学生8名、遠藤先生）、安曇野市4名
- (4) テーマ 令和の名水100選選出に向けたアイデア

● 安曇野市内水環境の視察

- (1) 日時 9月7日（土）終日
- (2) 場所 市内視察
- (3) 参加者 遠藤ゼミ9名、安曇野市2名

● 「憩いの池」清掃ボランティア参加

- (1) 日時 9月8日（日）午前9時～午前10時30分
- (2) 場所 豊科南穂高「憩いの池」
- (3) 参加者 遠藤ゼミ9名（学生8名、遠藤先生）、安曇野市4名（環境課3名、都市計画課1名）、水環境審議会2名、清掃ボランティア若干名

● 参加した学生の意見

氏名	令和の名水 100 選に向けたアイディア	湧水池清掃で感じたこと
U.M	<p>烏川渓谷周辺は国営公園として管理されており、休憩所や食堂もあって観光地として扱う準備は万全であるように見えた。そのため、後は人を呼び込んで知名度を上げれば名水 100 選に選ばれるのも夢ではないと思う。さらに武器を探すなら、過去に選出されたことのあるわさび田湧水群や、複雑に入り組んだ用水路も同時に宣伝すればいいと思う。地域の文化や生活と烏川の水が密接に結びついていることをアピールできれば、その水質の良さと合わせて、名水 100 選に選ばれやすくなると思う。</p>	<p>湧水池の掃除という滅多にない経験をできてよかった。当初は池の周りのゴミ拾いを想像していたが、ゴミより藻を取ることが中心の作業であったのは少し意外だった。地下水の温度が変化しないせいで冬には気温より暖かくなるという話を聞いて、地下水の特異性を感じた。今回は夏に訪れたためひんやりして心地よかった。湧水が藻によって詰まるという話も今回で初めて知った。実際に水底を掻きまわして泡が出てくる様子を観察する機会もあり、この清掃は本当に貴重な経験だと感じた。</p>
I.Y	<p>安曇野市は過去に平成の名水百選に選ばれ、「水の街」として全国的な知名度を持っている。さらにわさび田湧水群が昭和・平成の水百選に選ばれていることから、その二つの点をアピールすることが効果的と考えられる。烏川渓谷自体は他の観光地と比べて知名度が低いという課題があるが、安曇野市やわさび田湧水群などつなげ合わせることで他の観光地に負けない魅力作りが可能になる。特にわさびは安曇野市の名産であり、わさび農場には多くの観光客が訪れていた。それらの観光客を烏川渓谷にもっていくことができれば、知名度の向上につながっていくと考える。</p>	<p>スケジュールの中で池の清掃と知ったときは、濁った水の中に入り、ごみ拾いなどをきれいにすることだと思っていたが実際に成層する池を訪れるととてもきれいな池だった。そこが湧水地だったということもあると思うが、大阪と比べてそもそもの「池が汚い」というイメージが安曇野の人々にはないように思えた。</p>
T.Y	<p>安曇野市は湧き水などの水資源活用に力を入れており、わさび農園等で実際確認することが出来た。平成の名水 100 選に選ばれており、環境保全にも積極的に取り組んでいるため、水の質周囲の環境等を見れば選出の要件は十分満たしていると考えられた。しかし、知名度の点で少し物足りない部分があるのではないかと感じた。近くの上高地は全国的に高い知名度を誇っているため、上高地と比べて安曇野市にしかないものをアピールして差別化したり、水のパッケージを安曇野の良さ</p>	<p>実際に掃除してみて、自分たちがこけをとったところから泡が出てくるのを確認でき、湧水が出る環境づくりに少し貢献することが出来たと感じた。池の水はもともとかなり透き通っていて綺麗で、池の周りにもゴミはあまりなく手入れされている様子だったが、湧水という貴重な資源を守り利用し続けるにはこまめな保全活動が必要であることを実感した。</p>

氏名	令和の名水 100 選に向けたアイデア	湧水池清掃で感じたこと
	<p>を感じられ注意を引けるものに変えてみるなどの対応が考えられた。</p>	
T.R	<p>今回の合宿を通じて、烏川・安曇野の水がおいしいだけでなく、流域にきれいな景観が広がっていると思った。特に、烏川渓谷緑地は非常に綺麗に整備されており、魅力的な景観だと感じた。水について理解してもらうだけでなく、実際にその景観を体験してもらうことで、関係する人口を増やすことができるのではないかと考えた。安曇野周辺のパッケージツアーや移住プログラムの企画を通じて烏川流域についてより深く知ってもらうことで、興味関心を持つ人が増えていくと考える。</p>	<p>湧水池を清掃して、地下水が湧き出ており流れもあるのを見て、改めて安曇野の地下水が非常に豊富なことを実感した。同時に、地下水資源を利用したり、わさび畑を維持していくには人の手によって継続的に管理していくことが必要だとよくわかった。持続的な管理を行っていくためには、安曇野の地下水に関心のある人を増やしていくことが必要だと感じた。今回の胴長を着て湧水池を清掃するという活動は、非常に貴重な体験だった。</p>
M.S	<p>平成の名水 100 選の選出基準として地域住民と水の関わりが重視されていたことから、過去に選出された安曇野わさび田湧水群だけでなく地域全体として地下水と共に暮らしてきた歴史や伝統をアピール。また環境破壊が謳われている今だからこそ、自然との共生を全面的にアピールしていく。また烏川渓谷は松本や上高地と比べて知名度の低さというデメリットがある。そのため自然学校やふれあい体験、インターンを通して県外からの訪問者を増やすことで烏川渓谷の魅力により多くの人に実感してもらう必要があると感じた。また今回の合宿では低価格で気軽に泊まれる施設を探すのに難しさを感じた。そこで今回泊まらせていただいた Kiiya のように若者でも訪れやすい宿泊施設を増やすことも重要だと思った。</p>	<p>当初池の清掃と聞いて、生活ごみなどが落ちている池をきれいにするものだと思っていたが、実際は掃除をする前から透明感のある池で非常に驚いた。また藻を取る中でさらに池の透明感が増していき、達成感を持ちながら清掃に取り組めた。しかし胴長を着て、水圧も感じる中で中腰で清掃に励むというのは 20 代でも疲労がたまるものであり、この清掃活動を 1 年中行っているというのを聞いて、自然を守ることを大変さを感じた。また清掃中、大人だけでなく小さい子供や犬がラフティングの準備をしているのを見て、このきれいな水が地域の人たちの生活の一部になっていることを実感した。</p>
D.K	<p>想像以上に烏川渓谷周辺の環境整備がされており、知名度が上がることで観光名所となりそうだと感じた。烏川渓谷周辺には国営、県営、民営の施設がいくつかあるため、それらの活動主体が協力し地域住民も巻き込んだ大規模な企画も実施できそう。同じ烏川渓谷でも場所や季節によって異なる景色を見ることができると知れば、様々な施設に何度も足を</p>	<p>初め湧水池を見たとき、水がとても綺麗で清掃するという言葉に全くしっくりこなかった。一見とても綺麗な池だったとしてもこのような活動をしなければ維持することができないことを学び、改めて地下水や湧水の管理と保全の大切さを実感した。地上に湧き出た水しか直接見ることはできないが、その水がどのような経緯で湧き出ているのかを知るこ</p>

氏名	令和の名水 100 選に向けたアイデア	湧水池清掃で感じたこと
	<p>運んでもらえるのではないか。烏川渓谷周辺に留まるのではなく、街中でも烏川の水と関係のある水稲などの紹介があれば「烏川」という言葉に触れる機会が増え知名度向上に繋がるのではないか。「烏川」は特徴的な名前なので名前で売れそうだと思う。</p>	<p>とはとても大事であり、貴重な水源を守るためにも日々の管理は欠かせないと感じた。水は人間にとって欠かせない栄養でもありつつ、場所によっては観光資源となったり憩いの場となったりする唯一無二の存在であるため皆がその重要性を認識する必要があると感じた。</p>
H.K	<p>北アルプスと安曇野を結ぶ水の回廊として烏川渓谷を訪れてもらうために、アルプスへの登山客に烏川渓谷を通して登山を行う方法を提案し、登山前後の日程で烏川渓谷の観光に誘導すると良いのではないかと考えます。具体的には、四季折々の自然が美しい点や、登山道を兼ねた林道も完備している点などをPRしていくと同時に、まずは烏川渓谷の観光地としての魅力を宿泊施設経営者に伝える機会を増やして観光客の受け入れ態勢を整えることが効果的ではないかと考えます。また、令和の名水百選では水辺の活用も要件として想定されることから、自然学校などの実施を推奨し、地域の学生に向けた環境学習も積極的に行っていくことも効果的だと考えます。</p>	<p>第一印象は、とても透明度が高くてきれいな池という印象でした。池に入ってみると夏場にもかかわらず水温が低く、水中カメラで撮った写真もとても綺麗で、このような環境が人々の生活圏の近くにあることがとても魅力的だと感じました。そして、北アルプスから流れてきた地下水がこの池を通じてわさび田に流れているということを考えると自然の恵みを感じました。また、場所があまり道から見えないところにあり、地元の人々や観光客に知られているのかが気になりました。今回参加されていたボランティアの方のように地元の方々が定期的に清掃活動に参加されると日頃から地元の魅力に気づくきっかけになるのではないかと考えました。</p>



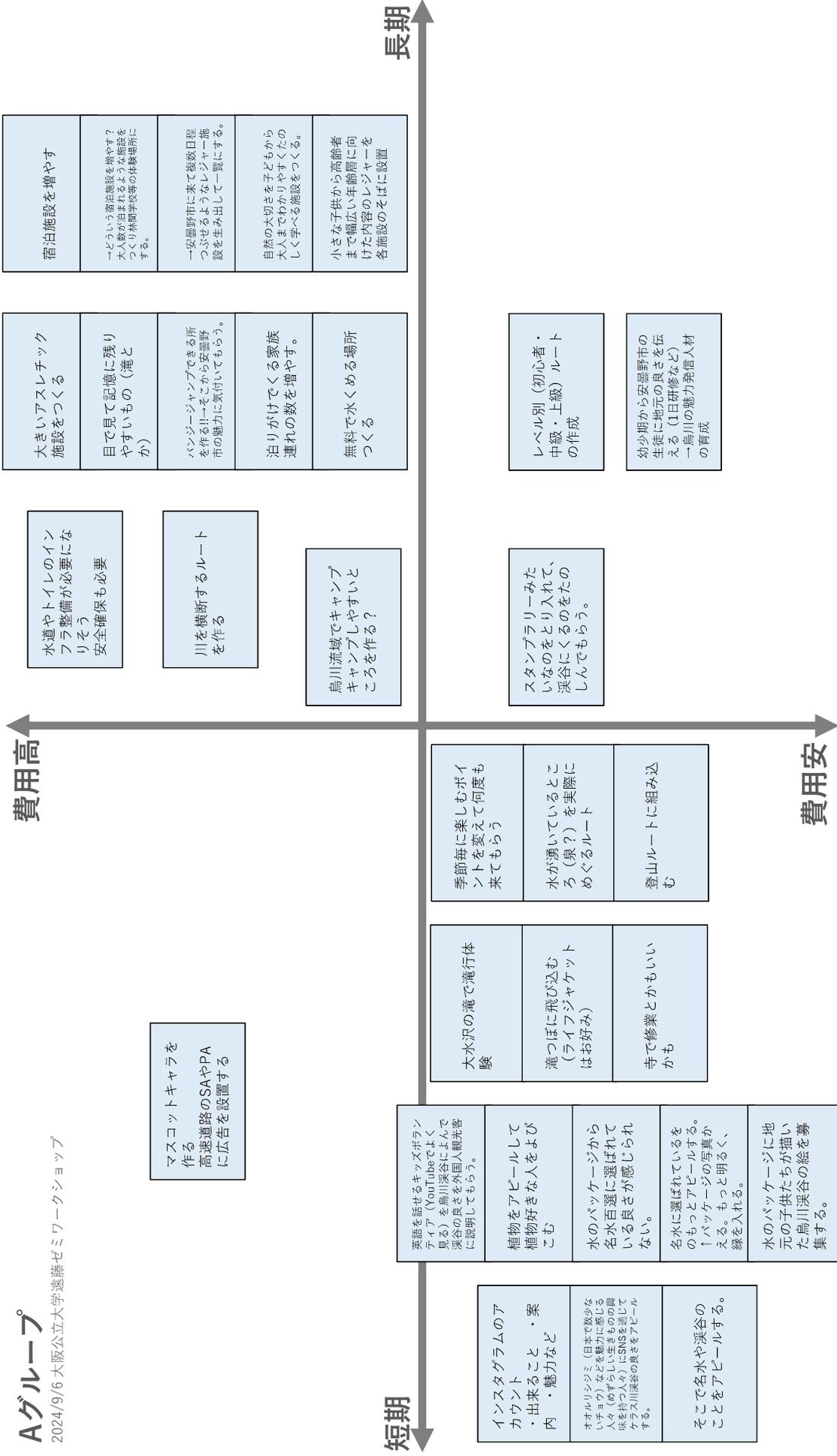
ワークショップ



憩いの池清掃

Aグループ

2024/9/6 大阪公立大学遠藤ゼミワークショップ



Bグループ

2024/9/6 大阪公立大学遠藤ゼミワークショップ

